

例④—観察メモおよび録音テープによる再生—

内容 過程	教師の基本発問	発問のねらい	生徒の主な反応
導入	○上田先生は、なんと言われましたか。 ○「私」は、どんな人だと、思いますか。	○筆者の学習動機に気づかせる。 ○筆者の人物や性格を知るようにさせる。	○アイヌ語研究は、日本の学者の責任である。 ○家族に迷惑かけたが、根性は立派である
	○普通は、大学を卒業したら、どうしますか。 ○研究を続けたら、家族の期待を裏切ったことになりませんか。 ○「わかってくれる」とは、身勝手ではないですか。 ○研究をやめたら……家族を救えたのでは？…… ○滅びるものなら、やらなくてもよいのではないか。	○筆者の悩みの中から、共通した考えをとらえる。 ○自分の家族愛への認識をたしかめさせる。 ○家族の立場からの心情を理解させる。 ・「研究の意義にも目を向けさせる。」 ○家族の状況と研究の意義(内容)を考えさせる。	○会社へ就職し、給料で生活する。 ○家族を裏切らない。 ○後でわかってくれると思う。 ○家族を救いたい。 ○他の人でも研究はできる。 ・「でも、研究が」 ○家族を困らせることにはなるが、研究に悔が残らないようにしたい。 ○やはり、アイヌ語を救うのは、日本の学者の責任だと思ふ。
展開	○この資料から、学んだ事を書いてみよう。	○感想から、(ねらいをと)らえる。	○真剣に書く。 ・何人かがつづやく。

筋のたしかめから、学習動機(「アイヌ語研究は、日本の学者の責任」など)を共感的にとらえており、同質的な面(「家族愛」や「心情的な受けとめ方」など)を研究の意義(「理想の追求」)と対立させることによって、その意義の価値的思考を追いつめ(「わかんねえなあ」というつぶやきが聞かれた)。

しかし、ここで「より望ましい理想社会」という観点から、想定的に、主題へ迫ることによって、より効果的な展開がなされたかも知れない。少なくとも、「家族への愛」と「研究の意義」との対立の中に、「大切な何か」があると大部分の生徒が気付いている(「終末の感想」から)ところから、相当、主題のねらいに追った授業であったと思う。

特に、「多角的な思考」の観点としては、先ず、筆者との共通点(「同質的な考えや悩み」など)を自己の持つ道徳性として、共感的にとらえており、「家族への愛情」「家族の筆者に対する愛情や考え(期待)」「家族の(経済的な)状況」「恩師からの激励」「アイヌ語(研究)への情熱」「アイヌ語の危機」などが、価値追求の過程の中に設定され、効果的な働きをしていた。また、感想から、主な内容

をまとめてみると……

表(7)—但し、延人数>

	感想の主な内容	初発	終末	とらえる観点
a	苦勞してやり通したのは立派	9人	7人	ねばりづよさ
b	情熱的で責任感が強い	15	0	一元的な共感
c	立派だが家族の犠牲は疑問	0	9	意義・心情の理解
d	家族の犠牲はよくない	1	9	家族愛

初発の a・b において、24人が「筆者の立派」さに共感しているが、ねらいとする観点(「理想の追求」)からではなく、家族愛からの心情的なつらさの中でやりぬいた根性と成功という、実際の「かっこよさ」に対する反応(「偉くなれば、家族も許してくれると思う」など)のようである。また、c と d における変化は、a と b の変化と比して、相対的に、心情面から思考を追いつめ得た結果「本音」とみられる。終末の a (7人)は、性格的な受けとめ方もあろうが、建前的なつらさ(「よく父に言われたから」など)が、含まれているようである。

更に、初発と終末における変化から、研究主題のねらいに、どれだけ迫ったかを内容的に見ると、知見的な面での深まり方から、「アイヌ語研究は、やはり、日本の学者の責任であると思う。」「滅びゆく文化へ救いの手をやらなければならない。」「他に研究する者がいないのだから。」など、「理想追求」の(「理想社会の実現」をめざす)姿を次第にとらえかけて来ており、家族への愛に追いつめられながらも、筆者の(価値ある行い「研究」の)立派さに気付き、共感した、むしろ、生徒の心情が厳しく純化され、深い判断を期待させるための、赤らな姿で取り組んだ授業であったと思う。

② 検証

⑦ 授業にかかわる事前事後調査結果の検定

B方式においても、かなり、総合的な判断力は高められたが、しかし、A方式においては、更に、心情面までも高められ、総合的な判断力が伸びていると見られる。また、仮説の実証として、A方式の方が、より有効であったかどうかをたしかめるために、授業の事前と事後における調査結果を例②のように「道徳性換算数値」でとらえ、検定してみた。

○事前事後テストの検定

A 方式 (n=24)	第 2 回		第 4 回	
	M	S・D	M	S・D
事前	46・39	17・16	37・50	12・59
事後	60・83	18・88	43・44	15・75
相関係数	r = 0.801		r = 0.863	
分散の検定	T ₀ = 0.766 < T _{0.01} = 2.819		T ₀ = 2.142 < T _{0.01}	
平均の検定	T ₀ = 2.518 < T _{0.01} = 2.807		T ₀ = 3.487 > T _{0.01}	